

指導資料

鹿児島県総合教育センター

地理歴史・公民 第13号

— 高等学校，特別支援学校対象 —
平成27年4月発行

言語活動の充実を図る学習指導の工夫 — 地理A「自然環境と防災」の学習を通して —

『高等学校学習指導要領』の改訂に伴い，思考力・判断力・表現力等の育成が重視され，積極的な言語活動の充実が求められている。

「地図を活用した学習を一層重視する」との中央教育審議会の答申を受け，「地理A」の改訂の要点にも，地図の読図や作図などの作業的，体験的な学習活動が，思考力・判断力・表現力等の育成を図る観点からも重要であることが示された。

また，「地理A」においては，中項目に「自然環境と防災」が新設され，その内容として「我が国の自然環境の特色と自然災害とのかかわりについて理解させるとともに，国内にみられる自然災害の事例を取り上げ，地域性を踏まえた対応が大切であることなどについて考察させる」が示された。二度の震災や様々な自然災害が相次ぎ，自然災害に対してどのような行動を取るべきかは，日常的に重要な問題となっており，地理の授業が果たす役割は大きいと思われる。

こうしたことを踏まえて，本稿では，言語活動の充実を図る学習指導の工夫について，地理A「自然環境と防災」の学習を通して，具体的な授業展開を示しながら述べる。

1 単元を貫く「基軸となる問い」の設定と学習指導計画

言語活動の充実を図るためには，どのような学習指導の工夫が必要であろうか。一つの方法として，「基軸となる問い」の設定が挙げられる。図1にそのイメージを示す。「基軸となる問い」の設定は，課題解決的な学習計画を立てることである。「自然環境と防災」の単元においては，「私たちは自然環境に対してどのように対処すべきか」という「基軸となる問い」を設定し，1単位時間の授業において関連をもった問いを立てる。次ページの表1に具体的な学習指導計画例を示す。

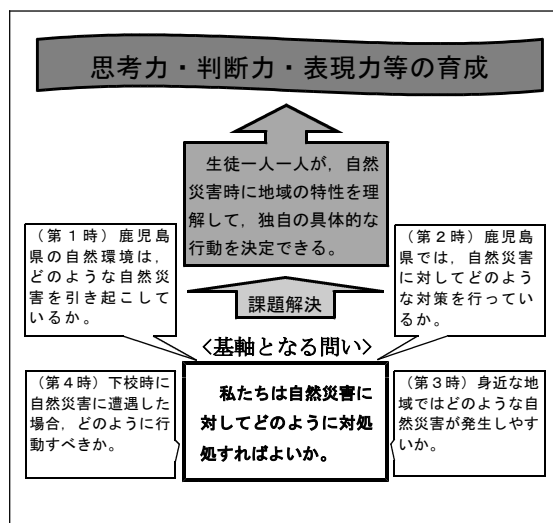


図1 「基軸となる問い」のイメージ

表1 地理歴史科地理A「自然環境と防災」学習指導計画例

○ 「基軸となる問い」の設定と単元の目標

＜私たちは自然災害に対して、どのように対処すべきか＞

- (1) 自然環境と自然災害との関わりを理解させ、日本・鹿児島県・身近な地域の自然災害の特徴を捉えさせる。
 (2) 独自のハザードマップを作成させ、自然災害時にはどのような行動を取るべきかについて考察させる。

○ 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
自然環境と自然災害について関心を高め、日本・鹿児島県・身近な地域の様々なスケールの自然災害について意欲的に追究しようとしている。	自然災害が身近なものであることを意識した上で、自然災害が発生した時にはどのような行動を取るべきかについて考察し、地図を活用して適切に説明することができる。	地域防災に関するサイトで情報を収集したり、地形図を活用したりしながら、有用な情報を読み取り、鹿児島県や身近な地域の自然災害についての考察に役立てている。	日本の自然環境と自然災害との関わりや鹿児島の特徴、身近な地域の自然災害に関する基本的な事項について理解している。

○ 単元の指導計画（全4時間）

時間	学習内容	○ 指導上の留意点 【評価の観点】
1	日本の気候の特徴と災害	<p>「基軸となる問い」＜私たちは自然災害に対して、どのように対処すべきか＞</p> <p>鹿児島県の自然環境は、どのような自然災害を引き起こしているか。</p> <p>○ 中学校地理的分野の地形・気候に関する基礎的事項を復習し確認させる。日本全体の自然環境の中で、鹿児島県の自然環境の特徴とその影響を受けた自然災害について理解させる。 【知識・理解】</p>
2	火山の恵みと災害	<p>鹿児島県では、自然災害に対してどのような対策を行っているか。</p> <p>○ 鹿児島大学地域防災教育研究センターのサイトにアクセスさせ、鹿児島県ではどのような自然災害が見られ、どのような防災対策をしているかについて関心をもたせる。桜島の大正大噴火の様子を鹿児島県立博物館のサイトで調べさせたり、現在の桜島の防災に関する情報を集めさせたりして、どのような防災対策を推進しているかを調べさせる。 【興味・関心・態度】、【資料活用の技能】</p>
3	ハザードマップと地形図の活用	<p>身近な地域では、どのような自然災害が発生しやすいか。</p> <p>○ 地形図と自治体が作成したハザードマップを比較させ、「独自のハザードマップ」を作成させる。学校周辺や自分の通学路においてどのような自然災害が発生しやすいかを読み取らせ、その内容を次時で発表できるように準備をさせる。 【資料活用の技能】、【思考・判断・表現】</p>
4	自然災害から身を守る	<p>下校時に自然災害（水害）に遭遇した場合、どのように行動すべきか。</p> <p>○ 下校時に発生した自然災害を想定して、自分がどのように行動するかについて独自のハザードマップを基にして、災害から身を守る行動について説明させる。 【思考・判断・表現】</p> <p>「課題解決」＜生徒一人一人が、自然災害時に地域の特性を理解して、具体的な行動を決定できる。＞</p>

「基軸となる問い」を中心に学習計画を立てる場合、学習評価の4観点をバランスよく計画することが重要である。第1時は課題解決に必要な基本的な知識を習得させる

時間として捉える。第2時以降において、情報の収集、地形図の読図、自然災害への対処方法を話し合わせるなど、言語活動の充実を図る学習指導を計画した。

2 言語活動の充実を図る学習指導の工夫

この項では、表1に示した学習計画の中でも、思考・判断・表現の育成を重視した第3、4時の具体的な授業の展開例を示す。

(1) 第3時

第3時は、防災に関する大学や自治体、地形図のサイトを活用して、身近な地域でどのような自然災害が発生するかについて把握させ、地図上に表現する学習を行わせる。ここでは、標準的なICTの環境（インターネットに接続ができ、PCに、ワープロソフトがインストールされている。）での授業の展開例を示す。

過程	主な学習活動
導入	<p>1 学習課題を設定する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>身近な地域では、どのような自然災害が発生しやすいか。</p> </div>
	<p>2 課題解決に必要な情報を収集する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 鹿児島大学地域防災教育研究センター、鹿児島市地図情報システム「かごしまiマップ」の防災マップ、地理院地図電子国土Webにアクセスし、学校周辺のハザードマップと同じ範囲の地形図のデータを開く。 ○ Snipping Tool（ウィンドウズ7に標準装備のソフト）で、学校周辺のハザードマップと地形図を切り取って、ワープロソフトに貼り付け、それぞれ同じ大きさに印刷する。* <p>3 「独自のハザードマップ」を作成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 2で印刷したハザードマップを見ながら、学校周辺でどのような自然災害が発生するかを地形図上に書き込み、「独自のハ

展開

「独自のハザードマップ」を作成する（図2）。

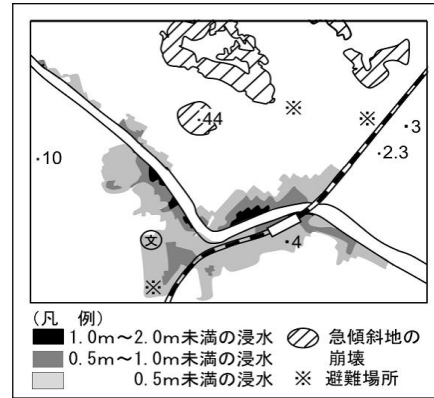


図2 学校周辺のハザードマップ

○ 各自の通学路で危険な箇所を防災マップで探して、「独自のハザードマップ」を作成する（図3）。

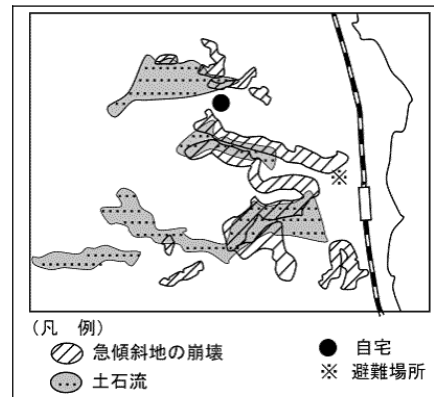


図3 通学路で危険な箇所

終末

4 本時のまとめを行う。

作成した独自のハザードマップを活用して、学校付近で浸水の可能性がある場所や自宅付近の土石流の危険性のある地域などを把握する。

(2) 第4時

第4時は、自然災害に遭遇した状況を「下校時に水害が発生した」と想定して、具体的に自分がどのような行動を取ればよいかについて、グループ内で討議した後、クラス全体で発表させる。

* 当該資料に基づき、紙媒体等で出力して利用することについての了承は、国土地理院、鹿児島市、鹿児島大学地域防災教育研究センターに確認済。鹿児島市以外のハザードマップは利用する前に各自治体を確認する必要がある。

過程	主な学習活動
導入	<p>1 学習課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>下校時に自然災害（水害）に遭遇した場合、具体的にどのように行動すべきか。</p> </div>
展開	<p>2 独自に作成した危険箇所のハザードマップを活用してグループ内での討議、クラス全体での発表を行う。</p> <p>通学手段や地域別にグループをつくり、独自に作成したハザードマップを基にして、水害に遭遇した場合の自分の行動（どのような経路を通して帰宅するか。帰宅困難な場合はどこへ避難するか。など）について話し合う。各自の意見をまとめて、全体発表用の資料を作成する（図4）。</p> <div data-bbox="292 913 746 1451" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> </div> <p>図4 グループで出た意見をまとめた図</p> <p>3 各グループが作成した図4を基に、各地域の水害時の特徴についてクラス全体で発表する。</p>
終末	<p>4 本時のまとめを行う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>作成した各グループのハザードマップを基に、駅へ向かう道を迂回したり、帰宅の交通手段を考えたりするなど、具体的な行動を決定する。</p> </div> <p>「課題解決」＜生徒一人一人が、自然災害時に、地域の特性を理解して、具体的な行動を決定できる。＞</p>

本稿では、「自然環境と防災」の単元において、基軸となる「自然災害にどのように対処すべきか」という問いを立てて、課題解決的な単元を構想し、言語活動の充実を図る学習指導の工夫を試み、その展開例を示した。

第4時に「基軸となる問い」に対する答えを個々に出させ、自然災害時に適切な行動を取ることができるようにするためには、表1の第3時において計画で示した「地形図と自治体が作成したハザードマップを比較させ、『独自のハザードマップ』を作成させる」という学習活動を設定し、言語活動の充実を図ることが大切である。

具体的には、学校付近の土地の起伏を把握したり、道路や線路がどのような地形を通っているかを把握したりして、起こり得る自然災害を読み取らせ、課題を解決させることで生徒の思考力・判断力・表現力等を育成する。このような学習活動は、学習指導要領の「地図の読図や作図などの作業的、体験的な学習活動」に当たる。

本稿の展開例を一つの参考として、言語活動の充実に取り組んでほしい。

－引用・参考文献－

- 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』平成22年
- 原田智仁著『新学習指導要領の展開 地理歴史編』平成22年、明治図書出版
- 文部科学省『言語活動の充実に関する指導事例集～思考力、判断力、表現力等の育成に向けて～』平成24年
- 文部科学省『学校防災のための参考資料 「生きる力」を育む防災教育の展開』平成25年
- 牛山素行著『防災に役立つ 地域の調べ方講座』平成24年、古今書院

(教科教育研修課)